

IMPROVED HULL with 57mm CANNON

帝国陸軍

**57mm砲装備
九七式中戦車[チハ] 新車台**

組立説明書

作る前にお読みください

- この製品は組み立てモデルです。あらかじめ本説明書の全行程に目を通し、各行程ごとにイラストを参考に、部品の接着位置を事前に確認しながら組み立て作業を進めてください。
- 本製品には接着剤・塗料は付属しておりません。プラスチックモデル専用の接着剤(瞬間接着剤は本製品に不向きです)と塗料を別途お買い求めください。
- 組み立てには模型用ニッパー、カッターナイフの他、ピンセット、ピンバイス(ドリル刃0.6、1.0mm)をご用意ください。小さなパーツの取り付けはピンセットを使い慎重に作業してください。
- 各部の塗装はGSIクレオス社製Mr.ホビーカラーの番号を口内の数字で、続けて色名を表示しています。水性ホビーカラーやタミヤカラーを使用する場合は、別紙のカラー対応表を参照ください。

This is an unassembled model kit. Read carefully and fully understand the instructions before commencing assembly. Check the glue position before gluing parts with the illustration. Glue and paint are not included in kit. Also need side cutters, modeling knife, tweezers, and pin vise with 0.6mm, 1mm bits. Please use tweezers for the installation of small parts and glue it carefully. Boxed numbers in illustration refer to "Mr.color" paint color numbers. Also check the color reference on the another sheet.

注意

1. 本製品は玩具ではありません。対象年齢15歳以上の組み立てモデルです。作る前にこの組立説明書をよくお読みください。
2. 部品を取り出した後のビニール袋は、子供が頭から被ったり飲み込む恐れがあります。開封後は破り捨ててください。
3. 部品はきれいに切り取り、切り取った後の不要部分や切り取りクズは「プラスチックごみ」として、お住まいの地域のルールに従い処分してください。
4. 尖っている部品があります。使用目的以外には絶対に使わないでください。小さいお子様の手の届く所に放置しないでください。
5. 特に小さいお子様がいる家庭では部品や部品切り取り後の不要部、ビニール袋等を誤って飲み込まない様に注意してください。小さなお子さまが側にいる、もしくはは出りする環境での作業や放置はおやめください。
6. 部品組み立ての際、ニッパー・ナイフ・ヤスリ等を不用意に取り扱うと刃先で怪我をする恐れがありますので注意してください。
7. 接着剤、塗料を使用する場合は、下記に注意してください。
 - 中毒の恐れがあるので閉めきった室内では使用しない。
 - 引火の恐れがあるので火の近くで使用しない。
 - 接着剤・塗料は目や口に入れない。誤って入れたときはすぐに大量の水で洗い流し医師に相談すること。
8. 工具・接着剤・塗料を使用する前には、それぞれの説明書に記載された注意事項をよく読み、正しく使用してください。

CAUTION MAKE SURE TO READ INSTRUCTIONS LISTED RIGHT BEFORE ASSEMBLING.

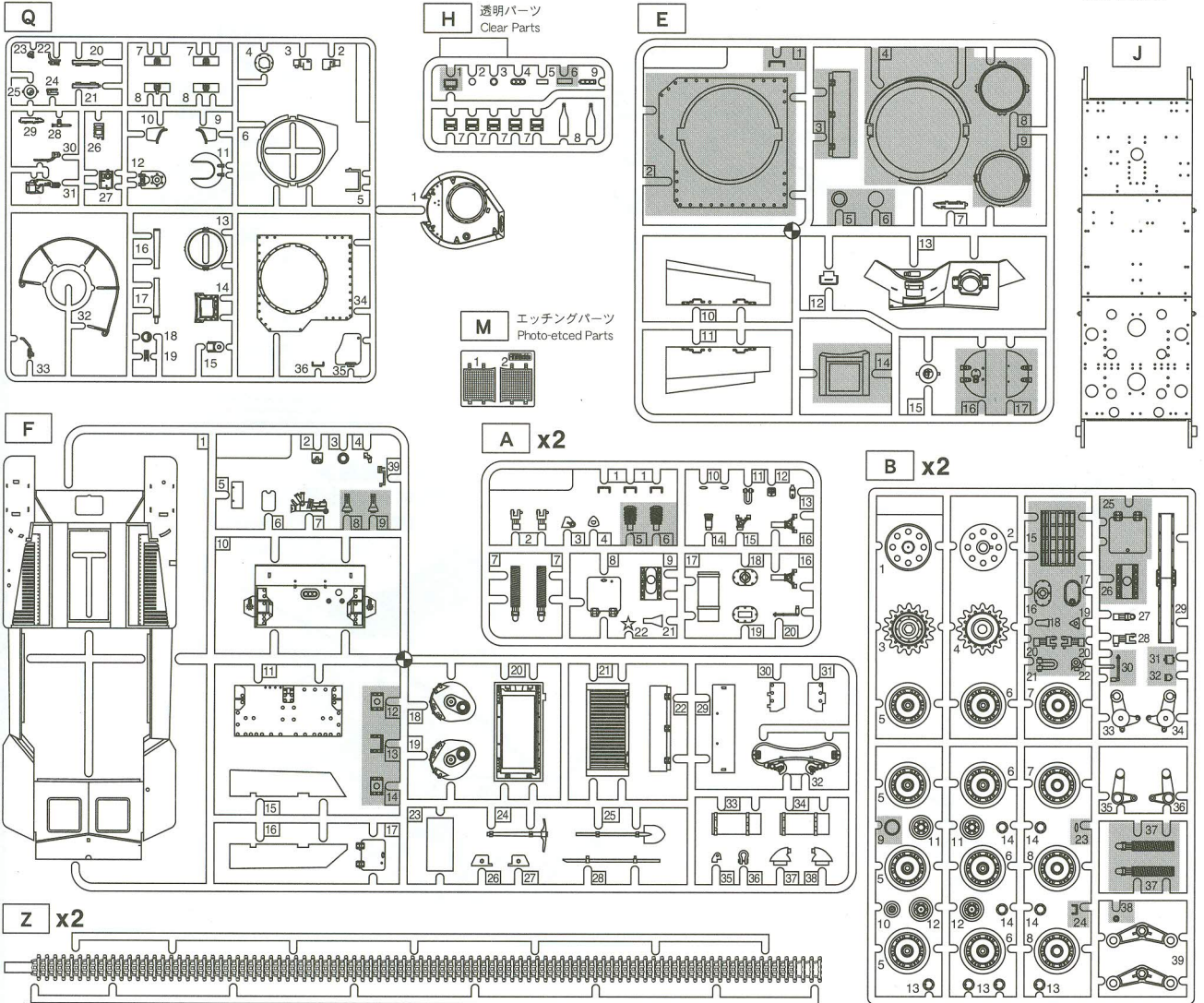
THIS IS NOT A TOY! THIS KIT IS SUITABLE FOR AGE 10 TO ADULT. ADULT SUPERVISOR SHOULD ALSO READ INSTRUCTIONS WHEN ASSEMBLED BY CHILDREN AGED 14 OR YOUNGER.

1. THIS IS AN UNASSEMBLED KIT. READ THE INSTRUCTIONS BEFORE ASSEMBLY. 2. TEAR UP AND THROW AWAY THE PLASTIC BAGS CONTAINING KIT PARTS AS CHILDREN MAY SUFFOCATE BY SWALLOWING OR WEARING OVER HEAD. 3. CUT THE PARTS OFF PROPERLY AND THROW WASTE PARTS INTO DUSTBOX AT ONCE. 4. DO NOT PLAY WITH THE PARTS FOR ANY OTHER PURPOSE, AS SOME PARTS MAY BE TOO SHARP. MORE CAUTION AND CARE NEEDED FOR FAMILIES WITH INFANTS. 5. KEEP ALL PARTS OUT OF REACH OF SMALL CHILDREN. CHILDREN MUST NOT BE ALLOWED TO PUT ANY PARTS IN THEIR MOUTHS, OR PULL PLASTIC BAGS OVER THEIR HEADS. 6. WHEN ASSEMBLING THE KIT, TOOLS INCLUDING KNIVES ARE USED. EXTRA CARE SHOULD BE TAKEN TO AVOID PERSONAL INJURY. 7. BE CAUTIONS AS FOLLOWS WHEN USING ADHESIVES AND/OR PAINTS. DO NOT USE IN CLOSED ROOM TO AVOID ODORS/TOXIC. DO NOT USE NEAR FIRE TO AVOID FLAMMABILITY. MISTAKENLY PUT INTO, WASH OUT PROMPTLY WITH FULL WATER AND CONSULT A DOCTOR. 8. READ AND FOLLOW THE INSTRUCTION SUPPLIED WITH TOOLING, GLUE & COLORS.

パーツ図 Parts

部のパーツは使用しません。

Parts not for use.
Nicht verwenden
Non utilisés



↑ 接着します
Glue
Kleben
Coller

0.0 mm
穴を開けます
Make a hole
Loch bohren
Fare un trou

接着しません
Don't glue
Nicht kleben
Ne pas coller

切り取ります
Remove
Entfernen
Enlever

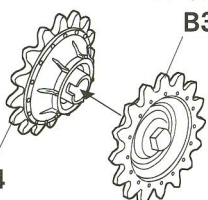
○数字で指示した水転写デカールを貼ります
Number of decal to soak and apply
Abziehbild in Wasser einweichen und anbringen

どちらか選びます
Optional
Wahlweise
Facultatif

STEP 1

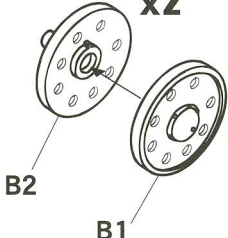
《起動輪》 Drive Sprocket

x2 2個作ります
Make 2 pieces



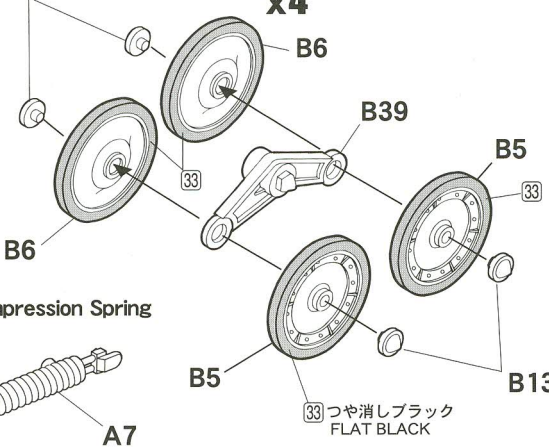
《誘導輪》 Idler Wheel

x2



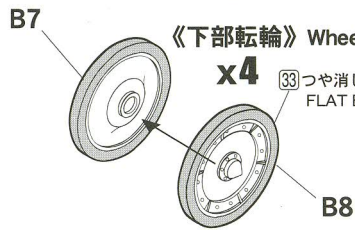
《下部転輪・サスアーム付》 Suspension Boggy

x4



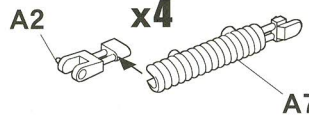
《下部転輪》 Wheel

x4

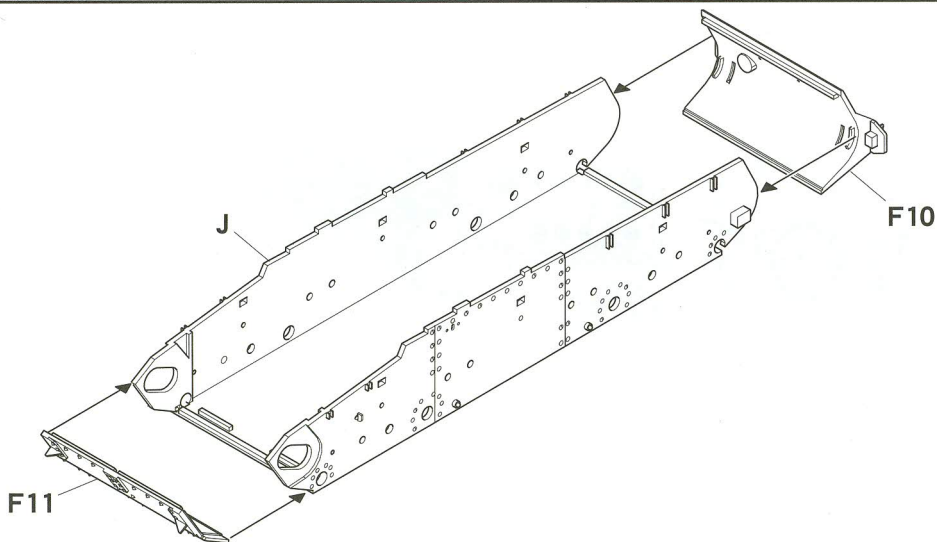


《懸架ばね》 Compression Spring

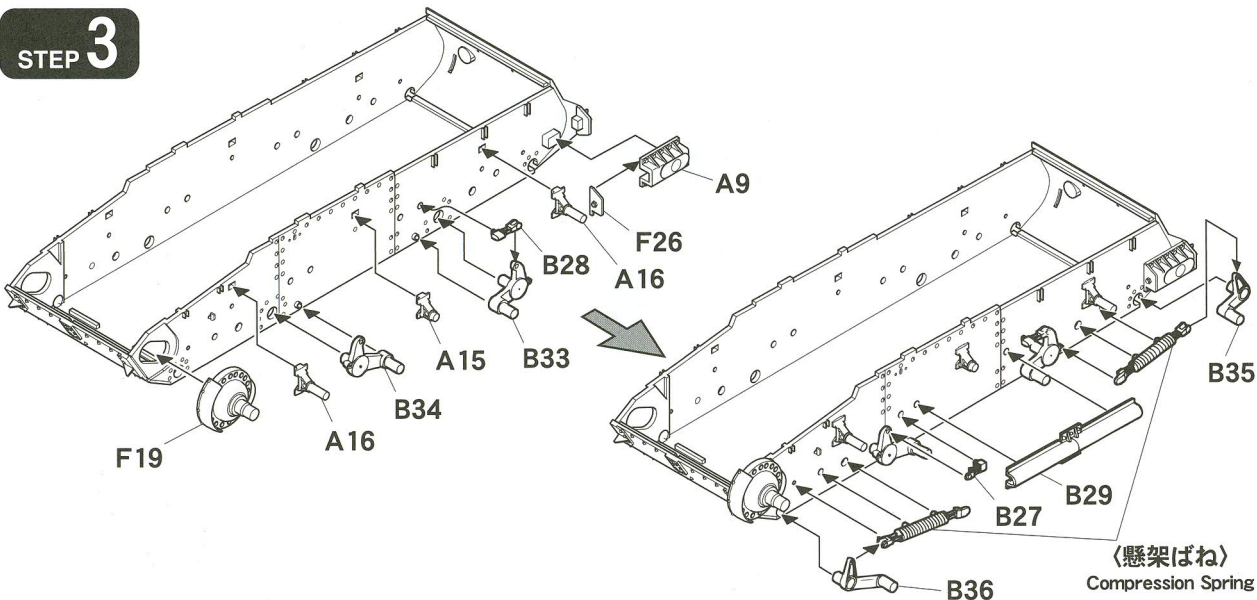
x4



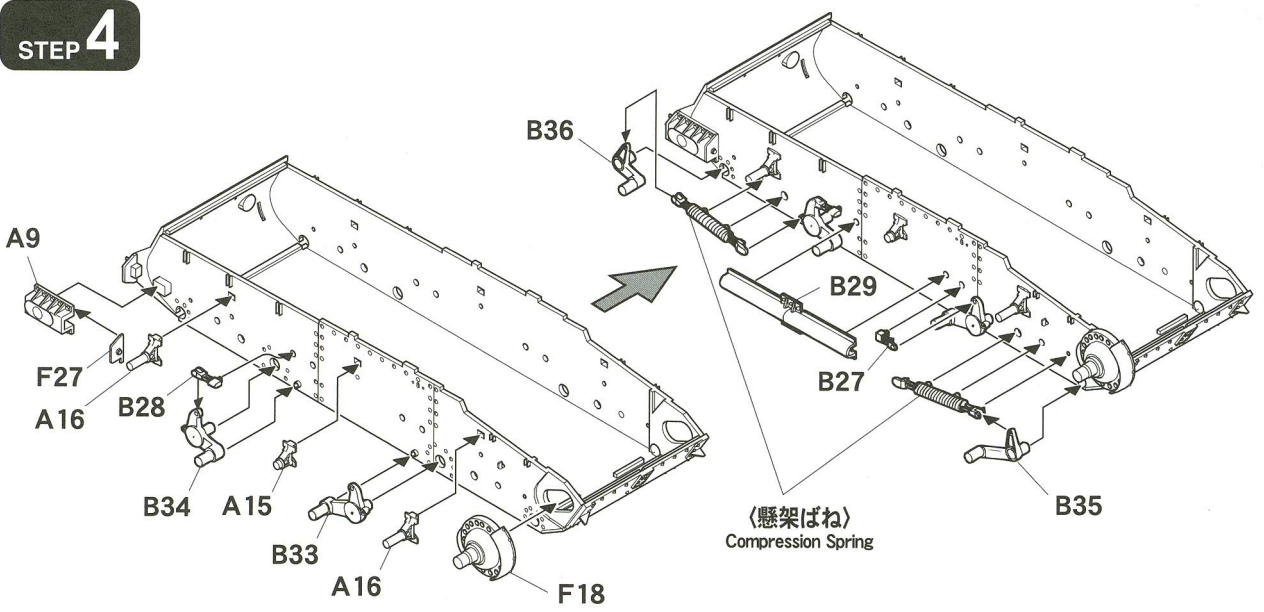
STEP 2



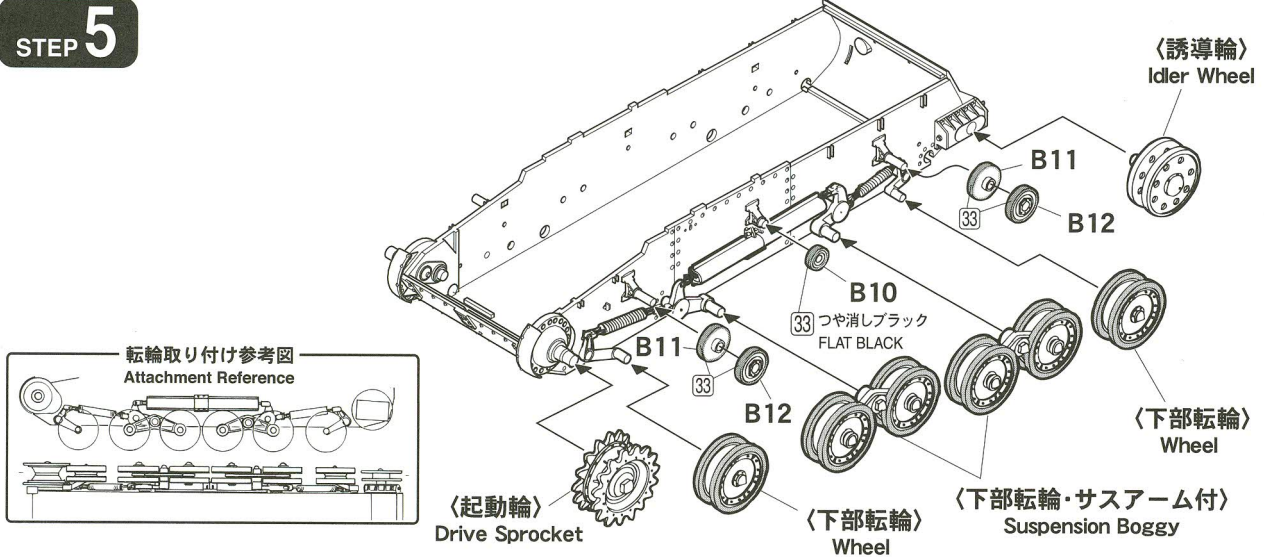
STEP 3



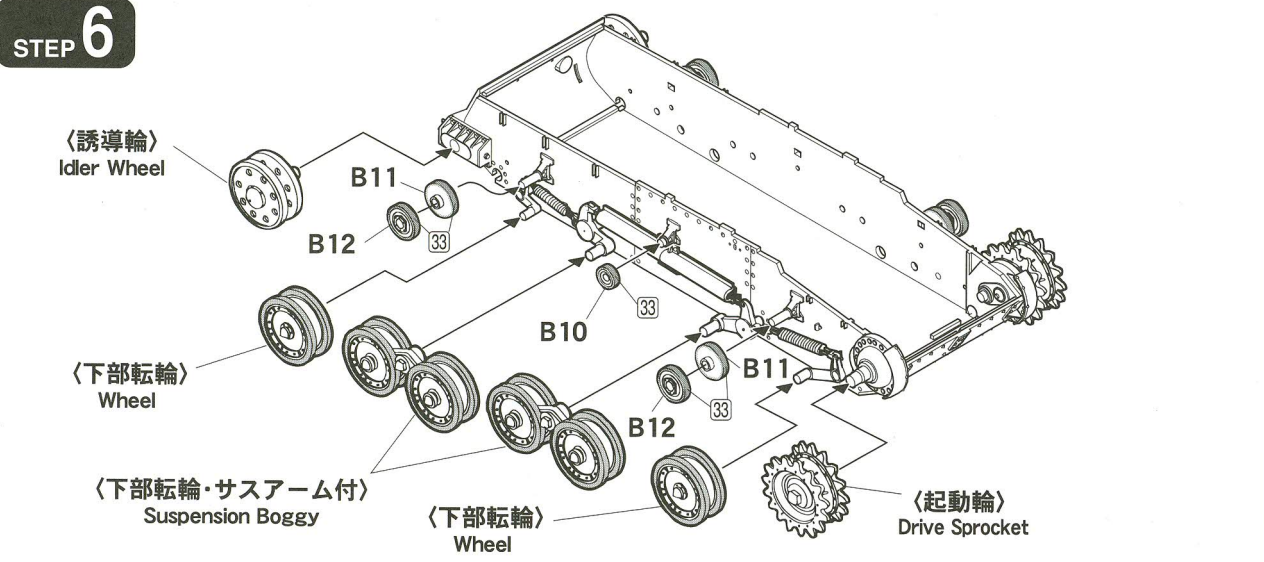
STEP 4



STEP 5

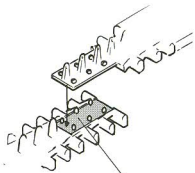


STEP 6



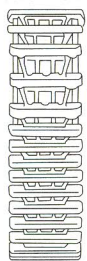
STEP 7

■キャタピラの組み立て

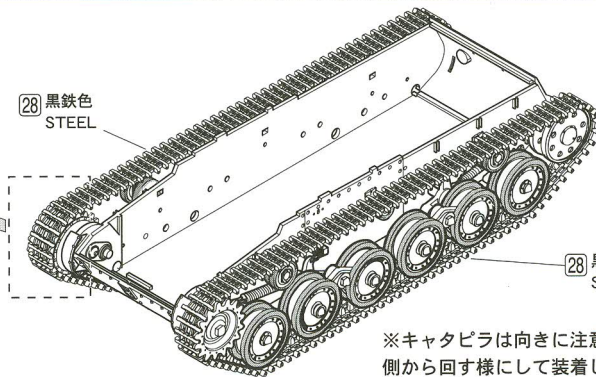


●接着剤を付けます

※キャタピラ取り付け方向参照
(車体前側より)
Direction Reference



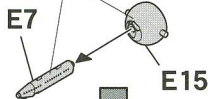
28 黒鉄色
STEEL



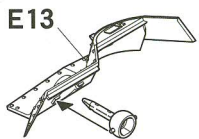
※キャタピラは向きに注意して起動輪側から回す様にして装着します。

STEP 8

33 つや消しブラック
FLAT BLACK



E15



E13

塗装例①の場合
Scheme ①



F1

Q34

E10



E11

E11

33 つや消しブラック
FLAT BLACK

F1



F20

F1

STEP 9

33 つや消しブラック
FLAT BLACK

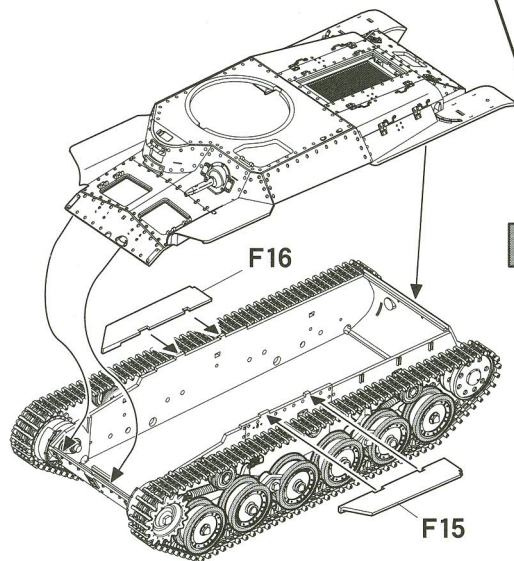
TC18 陸軍カーキ
Khaki

Q35

A10

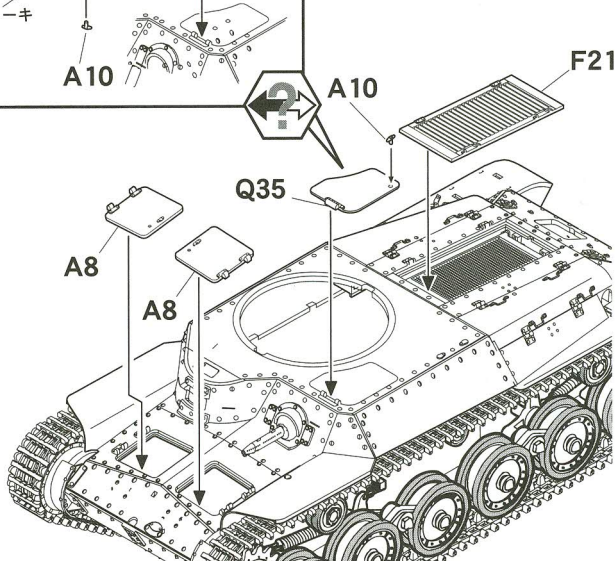
A10

F21



F16

F15



A8

A8

Q35

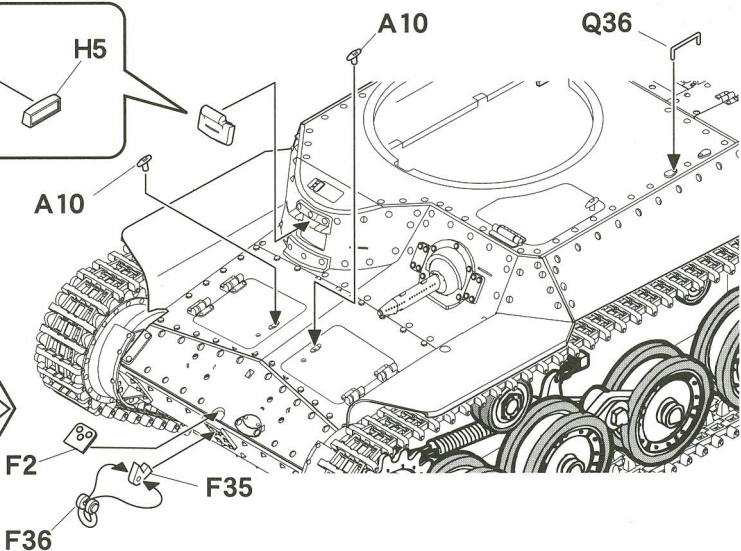
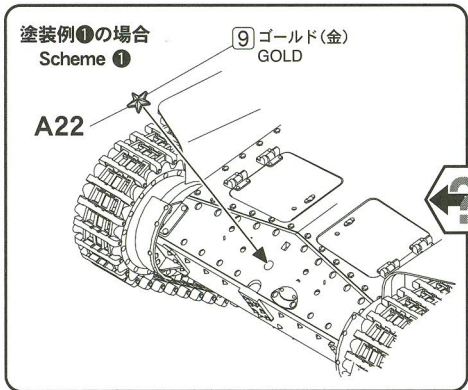
STEP 10

E12 H5
 内部 Inside
 62 つや消しホワイト FLAT WHITE

塗装例①の場合
 Scheme 1

9 ゴールド(金)
 GOLD

A22

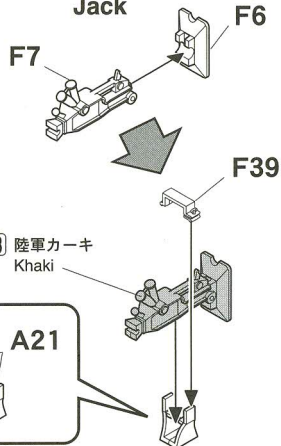
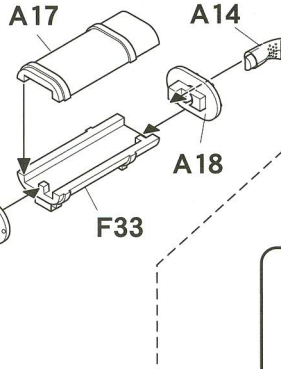
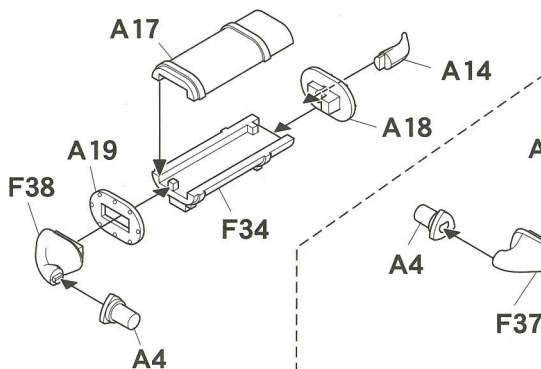


STEP 11

<消音器・右>
 Exhaust Muffler
 (Right)

<消音器・左>
 Exhaust Muffler
 (Left)

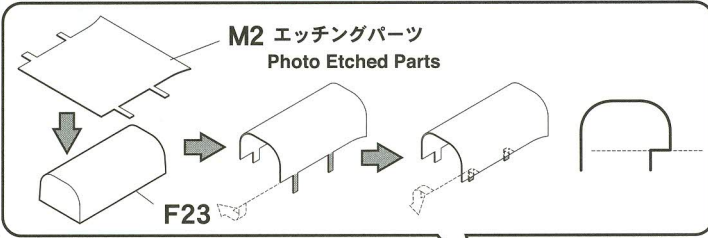
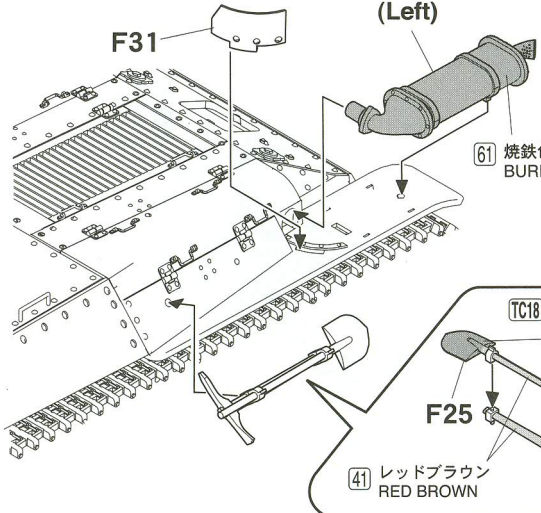
<ジャッキ>
 Jack



STEP 12

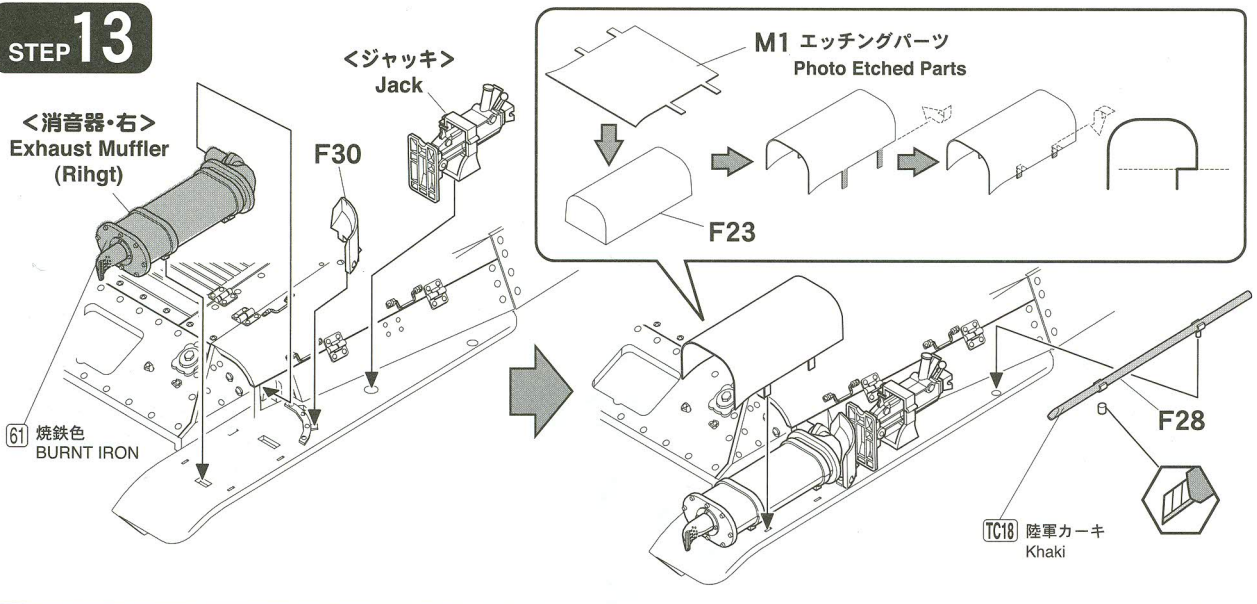
<消音器・左>
 Exhaust Muffler
 (Left)

M2 エッチングパーツ
 Photo Etched Parts

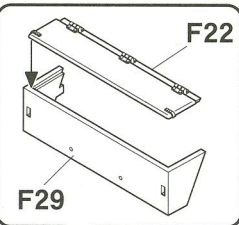


STEP 13

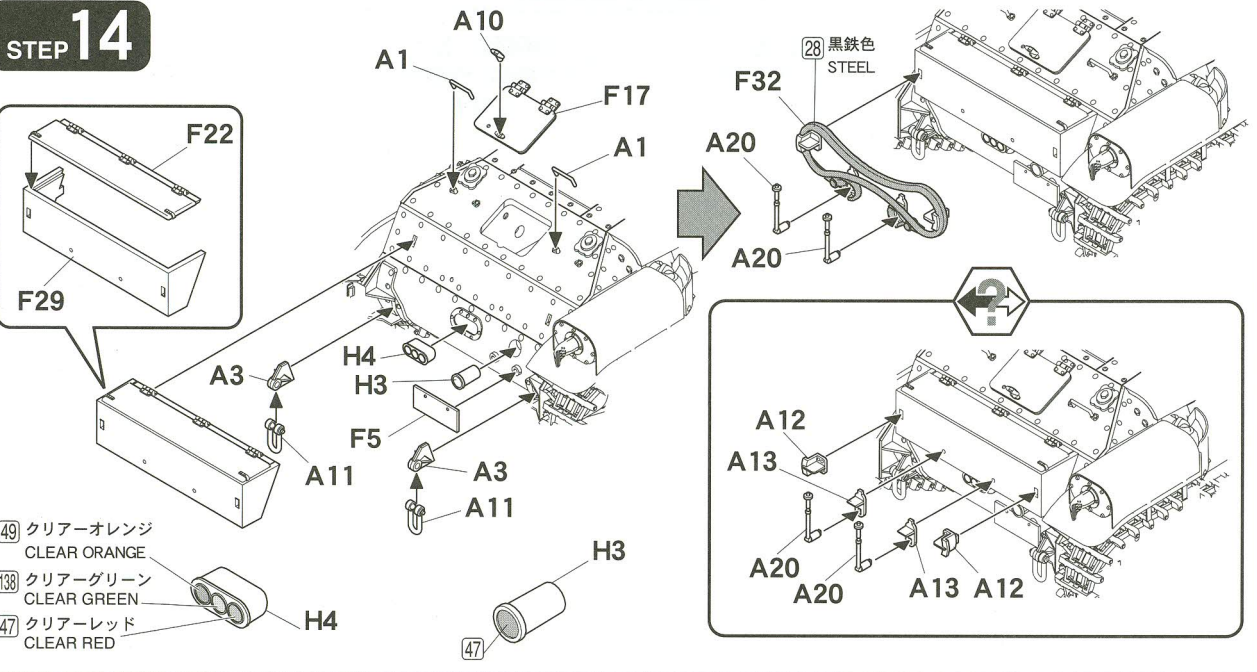
<消音器・右>
Exhaust Muffler
(Right)



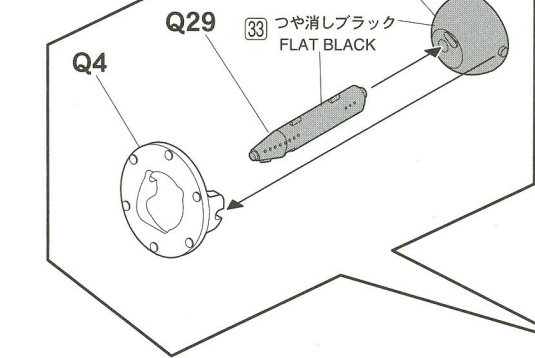
STEP 14



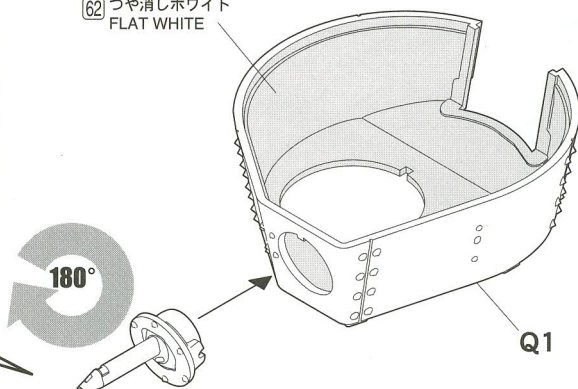
- 49 クリアオレンジ
CLEAR ORANGE
- 138 クリアグリーン
CLEAR GREEN
- 47 クリアレッド
CLEAR RED



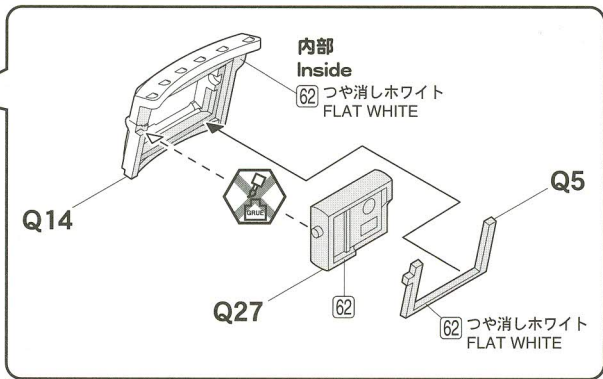
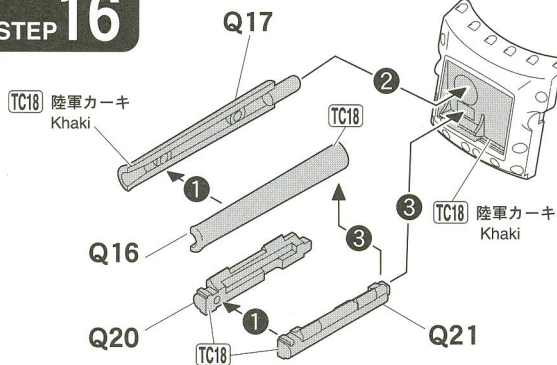
STEP 15



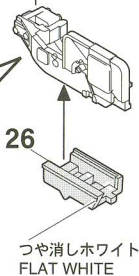
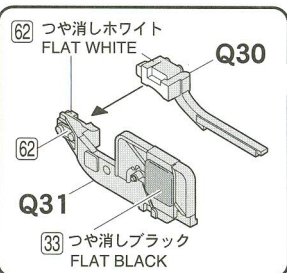
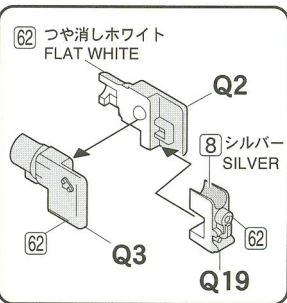
内部
Inside
62 つや消しホワイト
FLAT WHITE



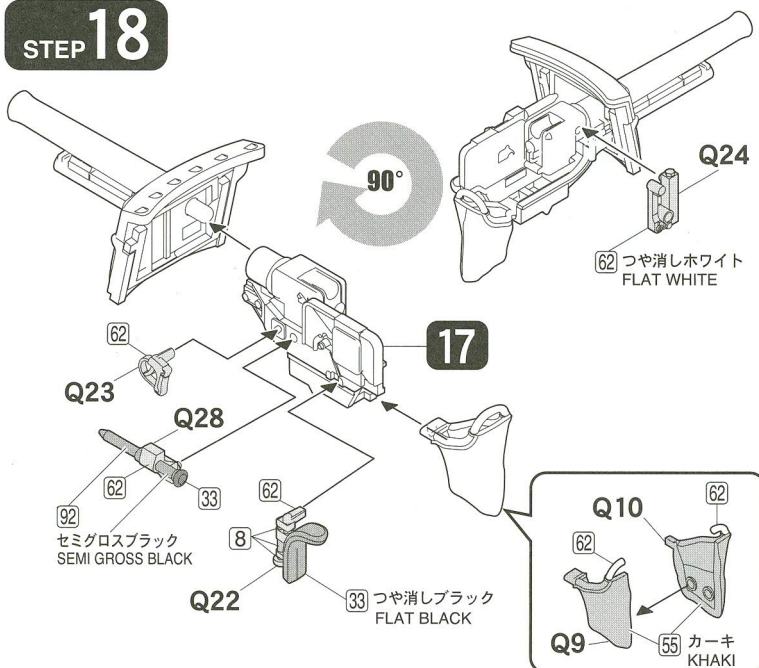
STEP 16



STEP 17

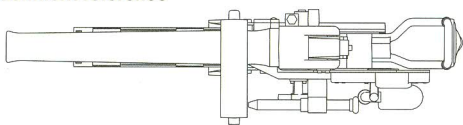


STEP 18

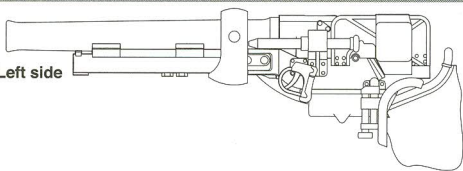


取り付け参考図 Attachment reference

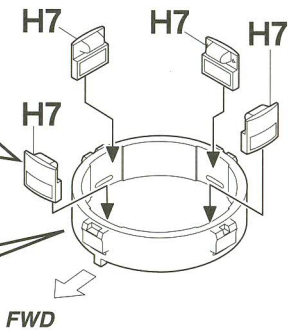
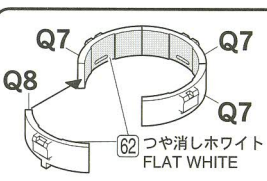
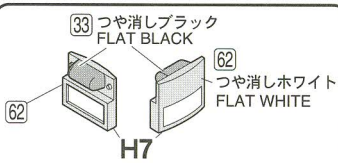
上側 Upper side



左側 Left side

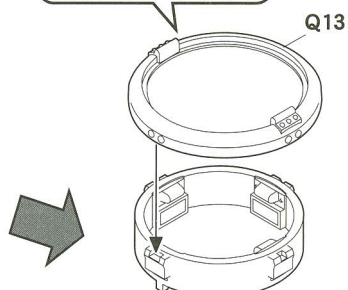
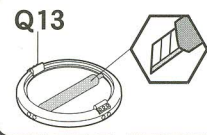
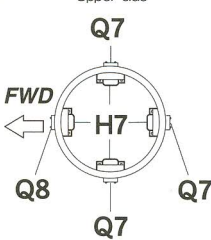


STEP 19

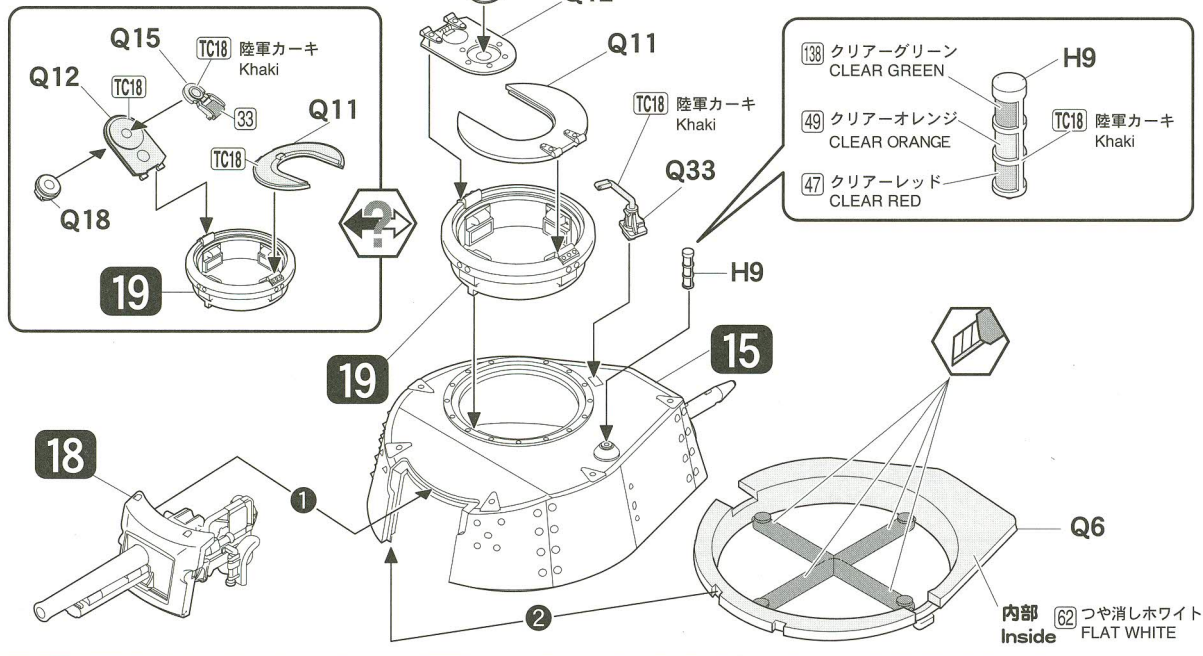


取り付け参考図 Attachment reference

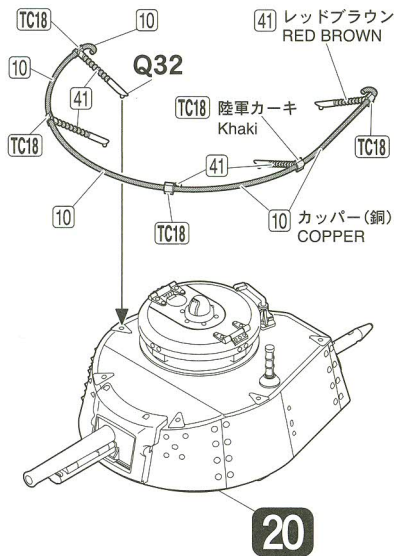
上側 Upper side



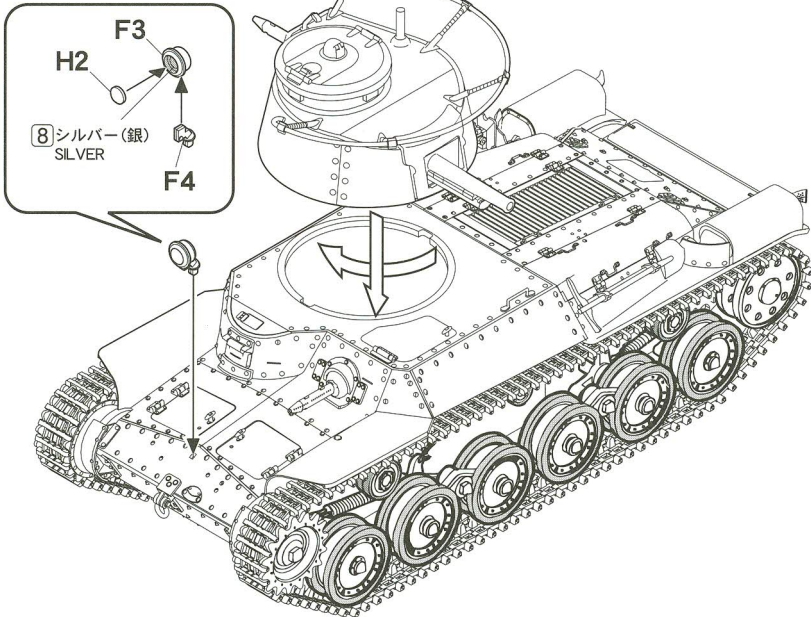
STEP 20



STEP 21



STEP 22



※製造には万全の注意を払っておりますが、万一製造上の不良部品が内包しておりました際にはお手数ですがご購入日およびご購入店様名をお書添えの上不良部品をご郵送ください。送料分の切手と代品をお送りいたします。

Finemolds

有限会社ファインモールド
〒441-3301
愛知県豊橋市老津町字的場53-2
TEL:0532-23-6810 FAX:0532-23-6811

インターネットホームページ

<http://www.finemolds.co.jp>

©2008 FineMolds MADE IN JAPAN

破損・紛失による部品請求カード

紛失・破損などにより部品を請求される方は下のカードの必要部品を○で囲み、お名前、御住所、電話番号をはっきりと書き添えたメモといっしょに、記載の代金を現金書留または定額為替にて当社アフターサービス係までお申し込みください。なお、いずれのパーツも本カード1枚につき1キット分に限りさせていただきます。価格は消費税、送料込みです。また価格は予告無く変更することがございますのでご了承ください。

FM25 九七式中戦車[チハ]57mm砲・新車台

A(1枚)	¥600	M	¥400
B(1枚)	¥900	Q	¥900
E	¥900	デカール	¥400
F	¥1000	Z(1本)	¥300
H	¥400	組立説明書&解説書	¥400
J	¥900		

Use Only in Japan

■その誕生まで

第1次世界大戦で初めて出現した兵器である戦車は、列強各国にその影響を深く及ぼした。日本も例外ではなく、大戦終了の直前からその入手を計画していた。

陸軍は大戦中の大正7年(1918)にイギリス製MkIV重戦車1両を購入。研究の後、大戦終了翌年の大正9年には第1次世界大戦の中古品であるフランス製ルノーFT軽戦車10両と、英国製のホイットヘッドA中戦車3両を購入した。

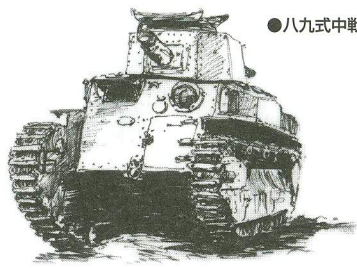
当時「タンク」と呼ばれたこの新兵器は運用研究の後に部隊配備をすべく、大正14年5月1日北九州久留米に第1戦車隊が、千葉に歩兵学校戦車隊が創設された。

まずは陸軍戦車隊の創設となったが、すでに海外では新型戦車が開発されている状況下で、今後これらの装備では対応できないことは明白であった。早急に新型戦車が必要であるとの結論から欧米諸国からの再購入を検討するが、これらの国も自国の戦車更新が完了していない中、日本向けに輸出する余裕はないとして断られた。このような状況から陸軍の主力戦車は国産すべきであるという意見が強くなった。

戦車を国産にするという結論が出たものの、当時の我が国は自動車の生産すらままならない工業後進国であり、果たして実現できるのかという危惧があった。この空気を打開すべく陸軍技術本部は大正14年6月に設計を開始、1年9カ月後の昭和2年(1927)2月には試製1号戦車が完成した。6月に行われた富士裾野演習場での試験では御殿場駅から演習場までの7~8キロの距離を自走して見学者から歓声が上がった。国産初の戦車は動くかどうかさえ危ぶまれていたのである。試験の結果は上々であったが、重量が予定の16トンから18トンとなったため主力戦車としては重すぎると判断された。

そこで新たに重量10トン級の新主力戦車を開発することとなり、1号戦車の設計を担当した原乙未生中佐をはじめ猪間俊三大佐、咲山中佐らにより試作車向は昭和4年に竣工した。重量9.8トン、各種試験で優秀であると認められこの戦車は八九式軽戦車として採用となった。

●八九式中戦車



後に実施部隊からの要求で数次の改修を行った結果重量は11.5トンに増加し八九式“中”戦車と改称されたが、初の国産主力戦車となった本車は、上海事変をはじめとして大戦終結に至るまで実戦部隊で使用された。

■八九式に替わるものとして

昭和11年6月27日、陸軍技術本部において第14回陸軍軍需審議会が開かれ、この会議で「新様式中戦車研究方針追加の件」が議題の一つとして取り上げられた。これは現用である八九式中戦車に替わるべき歩兵支援用主力戦車をどうするかという問題である。実施部隊である戦車学校が押す第1案と、参謀本部と軍事課が要望する第2案とがまとまらず議論は平行線をたどり双方の案を共に試作することになった。

(以下は原文のカタカナをひらがなに変え表記)

●第1案

- ・武装装甲および速度を増大し超越壕幅、登坂能力等は概ね八九式に準じせしめこれによって生ずる重量の増加はやむを得ざる程度に止む。
- ・武装を改善する。すなわち5糎7戦車砲および車載機関銃を新様式に改める。
- ・装甲は37ミリ級対戦車砲に近距離において対抗するを目的として増強する。
- ・速度は陣前、陣内の地形における実用速度をも考慮しなるべく増加する。
- ・重量は八九式より著しく増加せしめず。
- ・展望装置及び無線装置を改善す。
- ・戦闘室容積を八九式と同等ならしむ。

●第2案

- ・重量を小ならしむを主眼とし装甲および速度を増大し機関を九五式軽戦車と共通ならしめ武装の減少並びに車内の狭隘をしのぶ。
- ・武装を減少する。すなわち砲塔内の機関銃を除く。
- ・速度は陣前、陣内の地形における実用速度をも考慮しつつ増加す。
- ・重量は八九式より小ならしむ。
- ・登坂能力および超越壕幅は概ね八九式を標準とす。
- ・現制無線機を改善す。
- ・戦闘室は乗員1を減じかつ狭隘を持ってしのぶ。

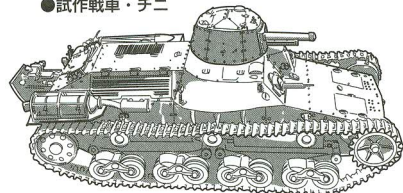
また共通事項として以下の仕様が決定的なものであった。

- ・外形は冶金術および溶接術進歩に伴い巧みに曲面および稜角継ぎを施す。

- ・発動機 空冷式重油発動機とす。
- ・車内配置 戦闘および操縦室を前方に発動機を後方に配置し起動輪を前方とす。
- ・砲塔を備えこれに砲1、機関銃1(第2案は砲1)を装着し、予備銃による高射設備を施し車体前面に固定機関銃を装着し、無線機を装備し、また防振防音を良好ならしむることと考慮す。
- ・懸架装置: 新様式を研究し不整地通過能力を増大す。
- ・軌道装置: 離脱防止及び音響軽減につき研究す。

以上の仕様で第1案を試作名称「チハ」として三菱重工が製作を担当、第2案「チニ」は大阪工機が当たることとなり、両試作車は昭和12年に竣工し試験が開始された。東京外山ヶ原の技術本部から富士裾野演習場までの自力走行試験では、大阪工機製のチニ車は大きなトラブルもなく運行できたが、チハ車は箱根山中で潤滑系のトラブルに見舞われた。幸い陸軍関係者が同行していなかったためこのトラブルは大きな問題にはならず処理できたという。

●試作戦車・チニ



演習場到着後の試験では、転じて馬力に勝るチハ車が優位であった。特に急斜面の登坂試験では最も明瞭にあらわれたという。陸軍関係者もこの試験結果を見てチハ車を押す雰囲気が多数を占めた。おりしも試験終了数日後の昭和12年7月7日に、支那事変の発端となる盧溝橋事件が勃発。これにより戦時体制となった結果予算の制約が無くなったこともはずみとなり、チニ車と比較し高価ながらもチハ車の採用が次の戦車整備会議上で決定された。

■チハ車の構造とその概要

「九七式中戦車保存取扱い教程」によれば、「本中戦車は八九式中戦車に比し速度および武装その他の各部の弱点を補強し、かつ全高を減じ努めて被弾経始を採用し以て著しく威力を増大しあり。」(句読点追加)とある。

車体構造は底板と外板との接合を溶接するが、その他の外板はI型鋼と山形鋼の骨組みに鉚接

されている。分解を要する箇所はボルト止めとされた。前面の最大装甲は25ミリ、当時としては世界標準であったといえるだろう。

原動機は八九式戦車(乙)で実用化された空冷ディーゼルエンジンを採用。三菱重工は昭和12年にスイスのSaurer社と技術提携をしたことでエンジン内部構造をそれまでの直接燃焼室から複過流式直接燃焼室へと変更し燃焼効果、ひいては出力の向上が可能となった。名称はSA12200VD、総排気量21,720cc、最大出力170馬力/2000回転、4バルブのOHVエンジンである。潤滑方式はドライサンプでオイルクーラーは車体中央部に設けられた。両側吸い込みファンは左右シリンダ列の外側に各2個ずつ取り付けられ、エンジン中央より空気を吸い出すSR5冷却方式がとられている。

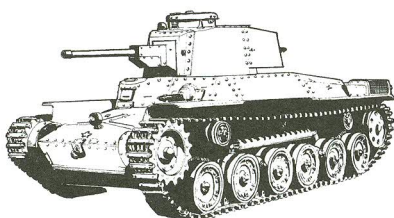
搭載砲の九七式5種7(ごせんちなな)戦車砲は昭和11年9月2日、陸密834号で研究方針が決定され設計が着手された。翌12年3月には試製砲が竣工し、大阪工廠および大津川射場において第1回試験が行われた。8月に試製戦車(チハ)とともに陸軍戦車学校で実用試験が実施され結果は「試製5種7戦車砲は従来不備とせし個所に対しおおむね適当に改修せられ、実用価値を向上せしものと認む。」との判決を得て、昭和12年12月18日付の陸技本甲第747号で仮制式が上伸された。主要緒元は以下に示す。

- ・口径 57ミリ
- ・弾量 2058グラム
- ・初速 349.3メートル
- ・射程(射角20度) 4700メートル
- ・高低射界 -15度~+20度
- ・方向射界 左右各10度
- ・砲身重量 75キロ
- ・全備重量 約150キロ

■実戦への参加とその後

初めの実戦は昭和14年(1939)7月のノモンハン事件であった。この戦いで戦車第3連隊と第4連隊が投入され、戦車第3連隊に4両の九七式中戦車が配属された。しかし7月3日のソ連軍陣地への攻撃で第3連隊は大きな損害を出し、連隊長吉丸大佐は搭乗していた九七式中戦車を撃破され戦死するという苦い初陣となる。歩兵支援用を主眼として開発された九七式中戦車では有利な形で対戦車戦闘を行うことが難しかったのである。

ただ陸軍当局も将来は対戦車砲を搭載した戦車が必要になるとの考えは理解していた。ノモンハン事件直前の昭和14年3月4日におこなわれた戦車研究委員会では『将来戦において戦車は対戦車戦闘の余儀な機会多きを顧慮す。』とあり、これが後に新砲塔チハへと結実していく。



●九七式中戦車・新砲塔チハ

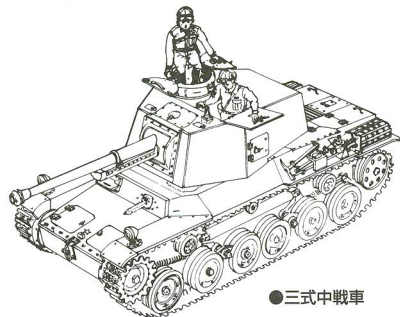
九七式戦車は昭和13年度の生産より昭和18年度まで2208両が生産された。生産は三菱重工をはじめとして日立製作所、陸軍相模造兵廠、陸軍小倉造兵廠などが担当した。生産中も細かな改修が加えられ、外形的な大きな変化として車体後部エンジン熱排気用のルーバーを側面排出からフェンダー下部へ移設して排熱効果向上と小口径弾・砲弾片に対する防御強化をした点

が目立った。これは昭和16年の中期以降と考えられるが、この他にもスターターモーターの強化、エンジンの無煙化対策、無線設備の改修などが現存史料によっても確認できる。

昭和17年以降に47ミリ砲装備の新砲塔チハが採用されたのちも、在来型である57ミリ砲塔型は生産され続けた。これは大阪工廠が担当する47ミリ砲の生産が追いつかなかったためであり、日本の工業生産の限界を示す一つの事例といえよう。戦車工場と火砲工場の生産力がバランスを欠いていたと考えられる。

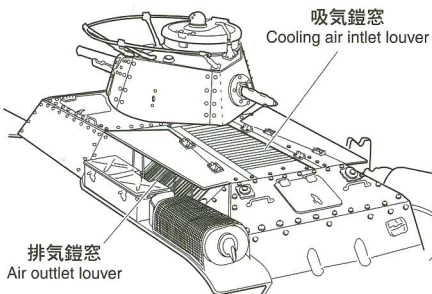
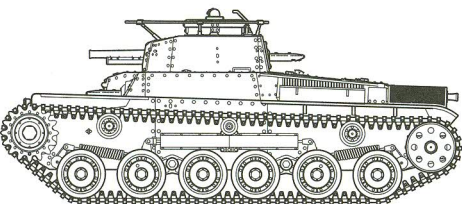
また、大東亜戦争開始前には種々の素材で戦時代用品の使用も考えられるようになった。これは諸外国との緊張により欠乏してきた戦略物資対策であり、兵器全般に適用されていくことになる。戦車を例に挙げればエンジン、トランスミッション、各部軸受け、装甲板などを構成する金属材料の変更などを始めとして各部品の仕上げ工程にまで及んだ。

昭和19年度以降は一式中戦車や三式中戦車に生産が変更されていくことになるが戦地の実施部隊の主力は九七式中戦車であり、終戦まで陸軍主力戦車として働き続けたのである。

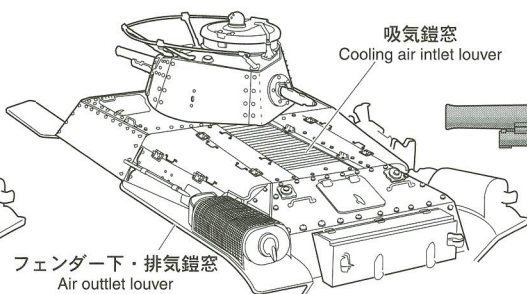
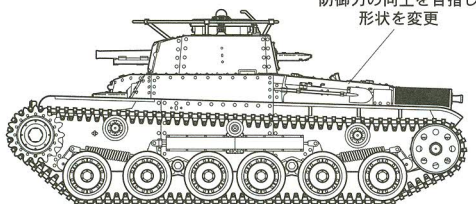


●三式中戦車

【九七式中戦車・チハ 旧車台】



【九七式中戦車・チハ 新車台】

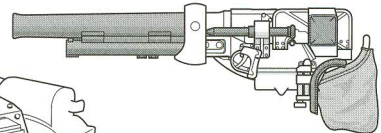


防御力の向上を目指し形状を変更

【諸元】

全備重量:	15 t
乗員:	4名
寸法:	
全長	5.55m
全幅	2.33m
全高	2.23m
装甲:	
砲塔前面	25mm
砲塔側面	25mm
車体前面	25mm
車体側面	20mm
	25mm
武装:	
	九七式5種7戦車砲×1
	九七式7種7車載重機×2

九七式57ミリ戦車砲



塗装とマーキング

車体の迷彩色はGSIクレオス「Mr.カラー戦車色セット③日本陸軍後期迷彩色」セットと「Mr.カラー戦車色セット④日本陸軍前期迷彩色」セット内の各色を指示しています(下記参照)。
 細部の塗装はGSIクレオスMr.ホビーカラーの番号を口内の数字で、続けて色名を指示しています。

大戦中期までの迷彩

Painting & Marking Early

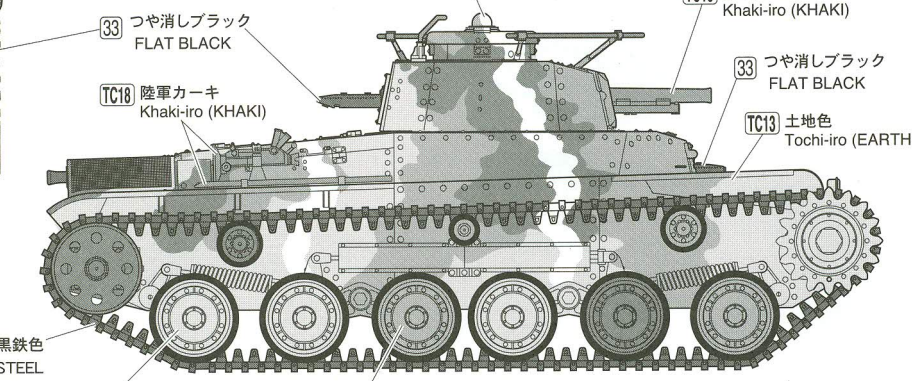
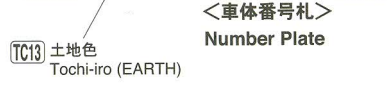
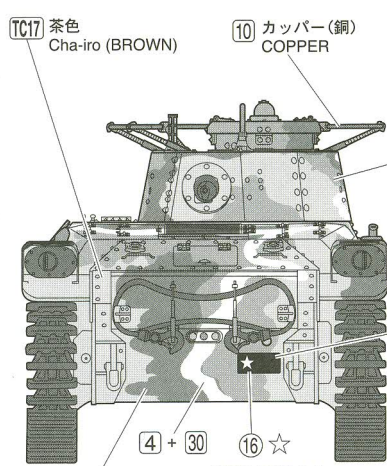
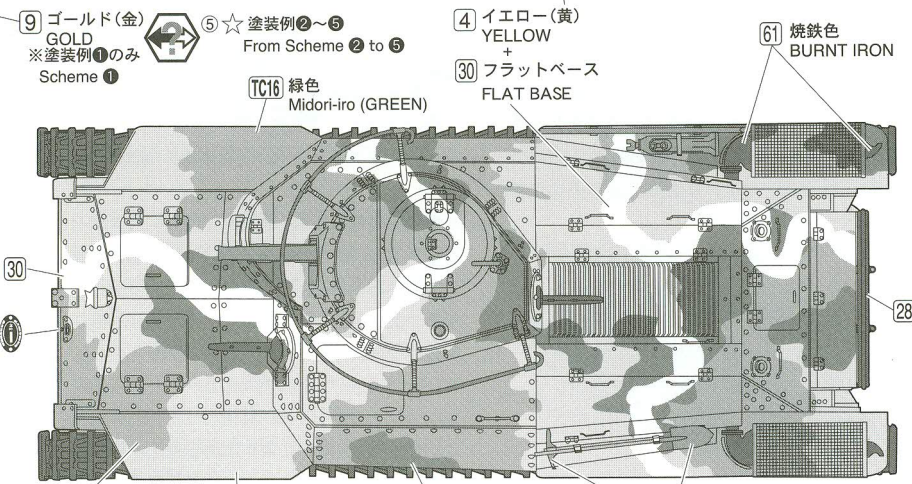
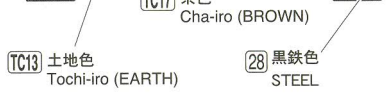
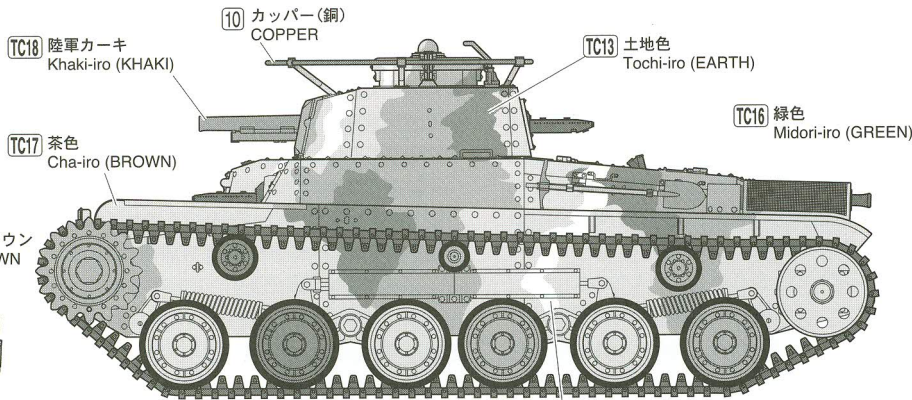
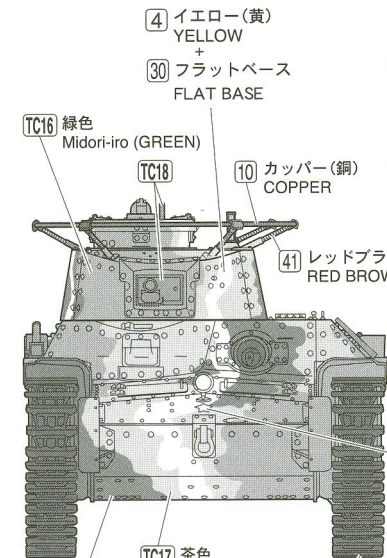
CS603 「Mr.カラー戦車色セット③日本陸軍後期迷彩色」
 Mr. SPECIAL COLOR SET No3 : Tank Colors for Imperial Japanese Army

CS604 「Mr.カラー戦車色セット④日本陸軍前期迷彩色」
 Mr. SPECIAL COLOR SET No4 : Tank Colors for Imperial Japanese Army



※図示していないデカールは使用しません
 Decals not shown are unused.

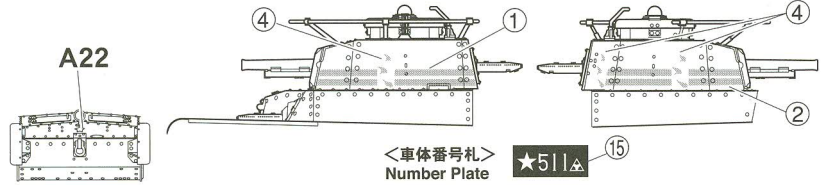
Above indicated colors assort as "Mr. SPECIAL COLOR SET: Tank Colors for Imperial Japanese Army".
 (Product No. CS-603 and No. CS-604 from GSI Creos) Other boxed numbers refer to GSI Creos "Mr. Color" paint color numbers.



塗装例① 戦車第23連隊 第4中隊 昭和19年 満州

Scheme ①, 23th Tank Regiment 4th Company Manchuria 1944

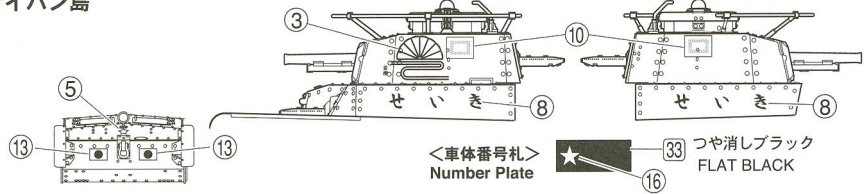
満州・公主嶺に展開した教導戦車旅団に属し、九五式軽戦車10輛と九七式中戦車36輛を有した。中隊名は「シノノミタテ(醜の御盾)」から由来する。昭和20年5月に本土防衛のために愛知県東部・静岡県西部地方へ移駐した。



塗装例② 戦車第9連隊 第5中隊 昭和19年 サイパン島

Scheme ②, 9th Tank Regiment 5th Company Saipan Is. 1944

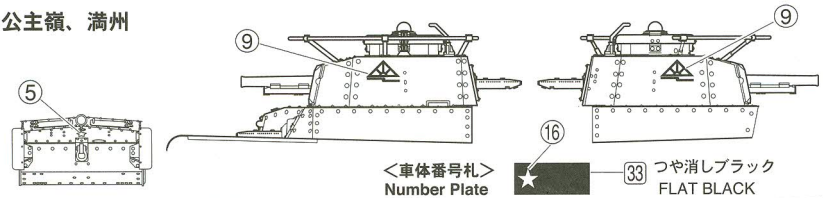
第5中隊長柴田勝文大尉は、一説には皇国史観に傾倒し、車体マークにもそれが反映したという。米軍上陸直後の6月16日に連隊主力で夜襲を行い、一時は米軍指揮所まで迫った。



塗装例③ 戦車第34連隊 第3中隊 昭和20年8月 公主嶺、満州

Scheme ③, 34th Tank Regiment 3rd Company Manchuria 1945

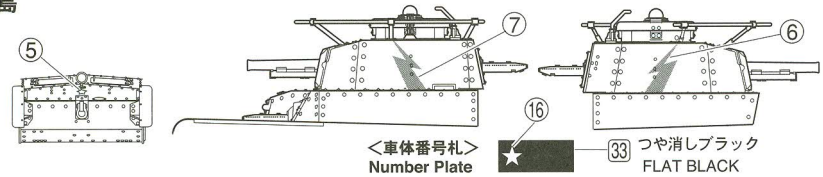
昭和19年11月に満州・勃利にて編成。8月8日の日ソ開戦により、満州国首都・新京防衛に出動するが交戦の機会がないまま終戦を迎えた。



塗装例④ 独立戦車第14中隊 昭和20年8月 濟州島

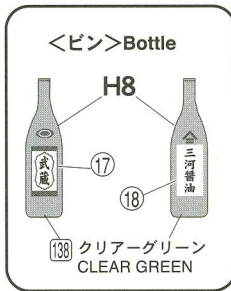
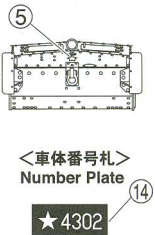
Scheme ④, Independent 14th Tank Company Jeju island 1945

濟州島防衛のため、昭和20年8月15日に編成下令され、8月20日に編成完結し同地の警備にあたった。後に現地で武装解除され、内地への復員は10月末に完結した。



塗装例⑤ 所属部隊不明

Scheme ⑤, Unit unknown



●デカールの貼り方●

1. 1回に必要なマークのみを台紙と共にハサミで切り抜きます。
2. 切り出したマークを10秒から20秒程度ぬるま湯に浸してから引き上げます。
3. モデルの貼りたい位置にマークを台紙ごと移動し、マークをずらしながらモデルに移します。
4. 濡らした指などでずらしながら正しい位置に動かします。
5. 位置が決まったら柔らかい布や綿棒などを使用し、中心部から気泡と水分を押し出すようにマークを固定します。(力を入れすぎるとマーク全体が移動するので注意)
6. 曲面や表面の彫刻部にマークを密着させたいときは、GSIクレオス社製Mr.マークソフターを使用し、綿棒などで慎重に作業してください。貼ったマークは乾いて固着するまで触れないようにします。(マークソフターの使用方法は製品の取扱説明書を参照してください)

Decal Application

1. Cut off each mark from the sheet.
2. Dip the mark into lukewarm water for about 15 seconds.
3. Place the mark in position, and slide it off the base paper and onto the model.
4. Move decal into position by wetting decal with finger.
5. To Push out excess water and air bubbles under mark, Press decal gently with the soft cloth or cotton sticks.
6. Use a hot steaming towel or decal softener to mold decal over sculpted or nonflat surface.
7. Do not touch the decal until it has become dry and firmly attached to model.

※近似色での表示です

カラーナンバー対応表		Color Reference		
GSIクレオス・Mr.カラー (口数字)	GSIクレオス・水性カラー	タミヤカラー	ENGLISH	DEUTSCH
4 イエロー(黄)	H4 イエロー(黄)	X8 レモンイエロー	YELLOW	GELB
8 シルバー(銀)	H8 シルバー(銀)	X11 クロムシルバー	SILVER	SILBER
9 ゴールド(金)	H9 ゴールド(金)	X12 ゴールドリフ	GOLD	GOLD
10 カッパー(銅)	H10 カッパー(銅)	XF6 コッパー	COPPER	KUPFER
28 黒鉄色	H18 黒鉄色	XF10 ガンメタル	STEEL	STAHL
30 フラットベース	H40 つや消し剤	X21 フラットベース	FLAT BASE	MATT GRUNDIERUNG
33 つや消しブラック	H12 つや消しブラック	XF1 フラットブラック	FLAT BLACK	MATT SCHWARZ
41 レッドブラウン	H47 レッドブラウン	XF64 レッドブラウン	RED BROWN	ROT BRAUN
47 クリアーレッド	H90 クリアーレッド	X27 クリヤーレッド	CLEAR RED	ROT, REIN
49 クリアーオレンジ	H92 クリアーオレンジ	X26 クリヤーオレンジ	CLEAR ORANGE	ORANGE, REIN
55 カーキ	H81 カーキ	XF49 カーキ	KHAKI	KHAKI
61 焼鉄色	H76 焼鉄色	XF7+XF56	BURNT IRON	GEBRANNTES BLAU
62 つや消しホワイト	H11 つや消しホワイト	XF2 フラットホワイト	FLAT WHITE	MATT WEIß
92 セミグロスブラック		X18 セミグロスブラック	SEMI GROSS BLACK	SCHWARZ HALBMATT
138 クリアーグリーン		X25 クリヤーグリーン	CLEAR GREEN	GRÜN, REIN
TC13 土地色	日本陸軍後期迷彩色セット(CS603)		TOCHI-IRO (EARTH)	
TC16 緑色	日本陸軍前期迷彩色		MIDORI-IRO (GREEN)	
TC17 茶色	セット(CS604)		CHA-IRO (BROWN)	
TC18 陸軍カーキ			KHAKI-IRO (KHAKI)	

GSIクレオス
Mr.カラー戦車色セット③

日本陸軍戦車
後期迷彩色セット

製品番号CS603 税込¥630

GSIクレオス
Mr.カラー戦車色セット④

日本陸軍戦車
前期迷彩色セット

製品番号CS604 税込¥630

上記製品のお問い合わせは：
株式会社GSIクレオス
生活産業部ホビー課
TEL:03-5211-1844
【お問い合わせ可能時間】
平日10:00~12:00/13:00~17:00